

令和3年度

# 教育要項

奈良県立医科大学

医学部 看護学科



# 目 次

奈良県立医科大学の理念、方針、ポリシー

令和3年度 年間教務日程

令和3年度 看護学科時間割(前期・後期)

1. 看護学科の概要	7
1) 設置の趣旨	
2) 基本的な考え方	
3) 学科の特色	
4) 教育目標	
5) 入学定員、修業年限及び学位	
6) 取得できる資格	
2. 看護学科の教育課程	8
1) 医学部看護学科授業科目履修要領	
(1) 令和2年度以降入学生の教育課程	
(2) 平成29年～31年度入学生の教育課程	
2) 保健師課程のアドミッションポリシー及び履修要領	
3) 卒業に必要な単位数	
4) 科目の読み替えについて	
3. 1年次開講科目の授業内容	22
4. 2年次開講科目の授業内容	84
5. 3年次開講科目の授業内容	138
6. 4年次開講科目の授業内容	172

教員名簿（看護学科専任・教養教育部門専任・兼任・非常勤）

## はじめに

大学では、高校までと違い、実にさまざまな授業科目が開講され、その中から何を選択して受講するかは、学生自らが決めることになっています。この「教育要項」は、そのためのガイドラインです。目次に示されているように看護学科の概要、教育課程、履修要領等が掲載されています。特に授業内容の詳細は、担当教員があらかじめ学生に示す教育プラン（目的・目標・内容・授業方法等）で、皆さんにとっては、学習計画や履修科目を選択するうえで、最も基本的な資料となります。科目の目的や内容をしっかり理解するとともに、各科目がどのように関連しているかも考慮したうえで、自らの学習プランを立ててください。

大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成するとしています。時間割は、授業の方法に応じ、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、原則として講義及び演習は15～30時間で組まれています。残りの時間については、学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間で、一つの授業科目の内容を確実に理解するには、その時間が極めて重要です。

この冊子を見れば、どの時期にどんな内容について学習するかが分かりますので、積極的に活用してください。

## 理念

本学は、医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与することを理念とする。

## 教育の理念と方針

**理念** 豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。

**方針**

1. 良き医療人育成プログラムの実践
2. 教員の教育能力開発と教育の質保証
3. 教育全般に関する外部有識者評価と学生参加の推進
4. 学習環境と教育環境の充実

## 奈良県立医科大学医学部看護学科のアドミッションポリシー、 カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

### 看護学科アドミッションポリシー

1. 自らを律し、人を思いやる心をもつ、人間性豊かな人
2. 幅広い知識と確かな基礎学力を有し、看護学への興味と科学的探究心をもって学習に取り組める人
3. 国際的な視野で考え行動できるとともに、地域の保健・医療・福祉に貢献する熱意と行動力のある人
4. 奈良県立医科大学を愛し、その将来を担う志をもつ人

### 看護学科カリキュラムポリシー

医学部看護学科であることを最大限に生かし、医学教育と連携して、専門性の高い知識、技術、態度を身につけた学生を育成することを目標として、看護教育カリキュラムを構成する。

1. 専門基礎分野における「人間の理解」と「社会の理解」において人間の尊厳と生命の尊重を理解し、高い倫理観を養う教養科目を配置する。
2. 専門基礎分野における「社会の理解」と「生活・環境の理解」、「健康の理解」において対象者の健康と疾病、障害、環境に関する専門知識および観察力を養う科目を配置する。
3. 専門分野における「看護学の基本」と「看護学の展開」において対象者の健康状態を的確にアセスメントでき、個別性のある看護が展開できる実践能力を養う科目を配置する。
4. 専門分野における「看護学の発展と探究」において看護に関する研究能力を養う科目を配置する。
5. 専門基礎分野における「国際理解」と専門分野における「看護学の発展と探究」において国際社会と地域社会で活躍できる能力を養う科目を配置する。

### 看護学科ディプロマポリシー

所定の期間在学し、カリキュラムポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規程で定められた卒業に必要な単位を修得することが学位授与の要件である。卒業時には以下の能力が求められる。

1. 生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観に基づいた全人的ケアを提供できる基礎能力を身につけている。
2. 目的意識を持って、対象者に応じた科学的根拠のある技術の適用と必要性を判断できる基礎能力を身につけている。
3. 対象者の健康状態を的確にアセスメントでき、個別性のある看護を展開する基礎的な実践技術を身につけている。
4. 保健医療における関連職種との協働やヘルスケアシステムにおけるマネジメントの基礎的能力を身につけている。
5. 国際社会および地域社会で活躍できる資質を身につけている。
6. 看護職者としてのアイデンティティを確立し、人間的に成長し続ける姿勢を身につけている。

## 令和3年度 年間教務日程

日 程		学 事
令和3年	4月2日 (金)	在学生ガイダンス
	4月5日 (月)	入学式
	4月6日 (火)	新入生ガイダンス
	4月7日 (水)	前期授業開始
	4月29日 (木)	祝日開講日(昭和の日)
	7月26日 (月) ~ 7月30日 (金)	前期試験
	8月2日 (月) ~ 9月16日 (木)	夏期休業 <sup>[注1]</sup>
	8月23日 (月)	大学院入学試験(1次募集) <sup>[注2]</sup>
	9月6日 (月) ~ 9月10日 (金)	医学看護学合同教育科目集中講義(前期)
	9月16日 (木)	解剖慰霊祭
	9月17日 (金)	後期授業開始
	10月15日 (金) ~ 10月17日 (日)	大学祭
	11月21日 (日)	看護学科推薦入試(学校推薦型選抜) <sup>[注2]</sup>
	12月1日 (水)	大学院入学試験(2次募集)[予定] <sup>[注2]</sup>
12月27日 (月) ~ 1月3日 (月)	冬期休業	
令和4年	1月15日 (土) ~ 1月16日 (日)	大学入学共通テスト <sup>[注2]</sup>
	1月18日 (火) ~ 1月24日 (月)	後期試験
	1月31日 (月) ~ 2月4日 (金)	医学看護学合同教育科目集中講義(後期)
	2月25日 (金) ~ 2月26日 (土)	一般選抜(前期日程)試験 <sup>[注2]</sup>
	3月3日 (木)	保健師課程選抜試験
	3月12日 (土) ~ 3月13日 (日)	一般選抜(後期日程)試験(医学科のみ) <sup>[注2]</sup>
	3月15日 (火)	卒業式(予定)
	3月16日 (水) ~ 入学式前日	春期休業

[注1] 夏期休業期間中に集中講義、追・再試験及び2・3・4年生臨地実習を行う。  
ただし、4年生は保健師課程履修者のみを対象とする。

[注2] 入学試験及び準備に当たる日は、校舎内立入禁止



令和3年度看護学科時間割

【前期】

	月					火					水					木					金					
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
1年生	人間栄養論	健康運動学A	健康運動学B	生物学		人体機能学	基礎生理学	病態医学Ⅰ	微生物学		看護学概論	人体構造学	臨床英語Ⅰ	看護補助の基本		教育実践論A	医療に 関わる 倫理 学ⅠA	基礎看護学実習Ⅰ	アジア文化論		臨床英語Ⅰ	化学	哲学	興文化論	国際情勢論	
2年生				ヘルスアセスメント		英語表現法ⅠA	英語表現法ⅠB	健康障害と看護				小児看護学概論	病態医学Ⅲ	家族社会学		老年看護学概論	成人看護学概論	母性看護学概論	病態医学Ⅲ		精神看護学概論	公衆衛生看護学概論	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学実習Ⅱ	
3年生																										
4年生																										

①次世代医療人育成論を、9月6日(月)～9月10日(金)で開講

①基礎看護学実習Ⅱで、外来見学実習は、6月11日(金)、14日(月)午後を実施する。また、病棟集中実習は、8月24日(火)～9月9日(木)に実施する。他の日程は、看護技術学Ⅱ、ヘルスアセスメント、健康障害と看護の時間に振り替えて実施する。  
②情報科学は、夏季休業中に5日間連続で集中開講(8月11日(木)、12日(木)、16日(月)、17日(火)、18日(水))

※「Advanced Clinical English h」については、月曜～金曜5コマ目に関講

※非常勤講師の担当等により、授業時間が一部変更になる場合がある。

※不合格となった科目については、次年度以降の時間割の編成上、修業年限内に再履修できない場合がある。

1限目	9:00	～	10:30
2限目	10:40	～	12:10
3限目	13:00	～	14:30
4限目	14:40	～	16:10
5限目	16:20	～	17:50

←前期の前半または後半に開講される科目

←複数クラスに分かれて開講される科目

←選択科目

←対象学生のみ必修科目

※総合実習:5月31日(月)～6月25日(金)②保健師課程履修者:実習Ⅱ(市町村)は、5月～8月に地区調査・現地OR・家庭訪問を実施。実習Ⅰ(保健所)は8月もしくは9月～10月に2日間、(学校)は9月～10月のうち各自調整した日程で2日間実習予定。  
③2021年度は国際看護Ⅱは休講とする。





# 1 看護学科の概要

## 1) 設置の趣旨

近年、医療の高度化・専門化、急速な人口の高齢化をはじめ、看護をめぐる状況の急速な変化により、質の高い看護の提供が求められるとともに、介護保険サービス、子育て支援など、保健・福祉の分野においても、これまで以上に看護の対するニーズが高まっている。そのため、高度な専門知識・実践能力、豊かな人間性を備え、幅広い視野で問題に対応できる人材の育成が求められる。

本県においては、平成8年度から地域医療の中核機関である奈良県立医科大学に看護短期大学部を併設し、看護師及び助産師の養成を進めてきた。今後も引き続きその責務を果たし、さらに発展させていくには、豊かな人間性を育てる教育の強化を図るとともに、効率的なカリキュラムのもとで、看護学及び助産学の教育に保健学の分野も加えて教育し、専門教育をさらに充実させる必要がある。併せて、地域医療・福祉の向上に寄与するため、看護学の研究体制の充実強化も図る必要がある。

このような状況をふまえ、平成16年4月、奈良県立医科大学看護短期大学部看護学科（3年制課程）及び専攻科助産学専攻（1年課程）を統合発展させる形で、奈良県立医科大学医学部看護学科を設置した。

## 2) 基本的な考え方

看護職の業務は、人間関係の信頼と人間愛にもとづき、人道主義の概念が基盤にあってなし得るもので、看護を受ける個人や家族、地域集団の健康に関する諸問題に対し、支援する職務でもある。看護職にある者は、自己の業務範囲である機能と役割を真摯に受けとめ、看護の知識と、熟練した技術を追求し、看護を実践する能力を持ち合わせる必要がある。

そのため、絶え間なく変化する社会のニーズに対応することが出来るように、常に幅広い知識と国際感覚を身につけ、保健・医療・福祉の各領域との連携を密に、地域社会に貢献し得る人材を育成する。

## 3) 学科の特色

本学は、奈良県中央の大和三山に囲まれた緑豊かな場所に位置し、利便性においても交通網に恵まれたのどかな地にあり、奈良県民の健康管理面の中枢機関として地域社会に貢献してきた。また、古くは、飛鳥時代の聖徳太子や奈良時代の光明皇后が病める人々に慈愛の看護を施されたといわれるなど、当地は看護の発祥の地とも言える。この歴史ある地に、この度設置された医学部看護学科は、高度医療に対応した看護実践能力の継承発展と、豊かな心の涵養を軸とした人間形成の開智に向け、大学全体が関わり、幅広く深い教養と総合的判断力を持った看護の専門職者として、積極的に社会に貢献しうる能力を持つ人材を育成する。

- (1) 卒業生全員が看護師の国家試験受験資格を取得するとともに、希望者は科目の選択により、保健師の国家試験受験資格を取得することができる。
- (2) 県民の高学歴化や生涯教育に対するニーズの高まりに応えるため、社会人入学制度を設け、看護職者の質の維持及び向上を図る目的で、編入学、科目等履修生等の制度を

設定する。

- (3) 本学の教育研究機能の積極的活用を図り、県内における看護職者との教育・研究等の交流を通して、看護に関する生涯教育の拠点としての役割を担う。
- (4) 看護や保健の分野で公開講座を開催し、県民福祉の向上に寄与する。

#### 4) 教育目標

- (1) 看護の対象である人間を全人的に理解し、生命の尊厳と権利を擁護する姿勢を持ち、倫理的判断に基づいた行動ができる能力を育成する。
- (2) 看護の目的および意義を理解し、対象者に応じた技術の適用と必要性の判断を自己決定できる実践能力を育成する。
- (3) 変化する社会のニーズやあらゆる人々に応じた看護の展開方法を修得し、さらに幅広い学問を探究することで、看護学固有の課題を追求し、改革する能力を育成する。
- (4) 大学生活や看護の実践を通して、自己を洞察し、看護職者としてのアイデンティティの形成、人間形成等、自己の成長に努める姿勢を育成する。
- (5) 医療および関連職種との協働の必要性を理解し、ヘルスケアシステムにおけるマネジメントの基礎的能力を育成する。
- (6) 地域および国際社会における看護職の役割を理解し、地域保健医療および国際協力活動に貢献できる基礎的能力を育成する。

#### 5) 入学定員、修業年限及び学位

	定員	修業年限	学位
入学定員	85人	4年	学士（看護学）

#### 6) 取得できる資格

看護師国家試験受験資格

保健師国家試験受験資格（選択により取得可能）

## 2 看護学科の教育課程

本学の教育目標を達成するために、授業科目を、人間・社会の理解、国際理解、生活・環境の理解、健康の理解、看護学の基本、看護学の展開、看護学の発展と探究の7区分とし、教育課程を構成している。開設する科目、単位数、時間数及び履修年次については、13～16頁の看護学科教育課程のとおりである。

# 奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領

(目的)

**第1条** この要領は、奈良県立医科大学学則（平成19年4月1日以下、「学則」という。）第8条の規定により、医学部看護学科の授業科目（以下、「科目」という。）の名称、履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(科目等)

**第2条** 開設する科目、単位数、時間数及び履修年次は、別表1及び別表2のとおりとする。

(科目の履修)

**第3条** 学生は履修しようとする選択科目について、各学期の指定期間内に履修登録を行わなければならない。

- 2 学生は、前項の登録をした後においては、任意に履修科目の変更又は取り消しをすることはできない。ただし、学長が正当な理由と認めた場合はこの限りでない。
- 3 科目は、原則として定められた年次に履修するものとする。
- 4 単位を修得した科目は、再び履修することはできない。
- 5 入学前に他の大学等において修得した単位の認定については「奈良県立医科大学入学前の既修得単位の認定に関する規程」による。

(履修科目の制限等)

**第4条** 看護学実習科目については、次の要件を満たさなければ、履修することができない

- (1) 基礎看護学実習Ⅱを履修するためには、「健康の理解」に含まれる人体構造学・人体機能学、「看護学の基本」に含まれる科目のうち、第1年次に開講される科目（看護学概論・看護援助の基本・看護技術学Ⅰ・フィジカルアセスメント・看護過程論・基礎看護学実習Ⅰ）をすべて修得済みあるいは修得見込みであること。また、原則として、第2年次に開講される科目（看護技術学Ⅱ・健康障害と看護・ヘルスアセスメント）を修得済みあるいは修得見込みであること。
  - (2) 第3年次後期から始まる各看護学実習科目を履修するためには、第3年次前期終了までに開講される必修科目のうち別表1又は別表2に示す科目をすべて修得していること。  
ただし、別表1又は別表2の目的区分の「人間・社会の理解」「国際理解」「生活・環境の理解」「健康の理解」の必修科目において、5単位以内の未修得科目があっても、各看護学実習科目を履修できるものとする。また、教育課程の変更等でやむを得ない事由が生じた場合は別段の判断を行うことがある。
  - (3) 統合実習を履修するためには、第3年次後期までに開講されているすべての看護学実習科目を修得しなければならない。  
ただし、未修得の看護学実習科目が1科目の場合は、別段の判断を行うことがある。
- 2 第4年次で開講する保健師課程に関する科目を選択できる学生は20人以内とし、履修方法及び選考方法等については、別に定める。ただし、公衆衛生看護学実習を履修するためには、第2年次後期、第3年次前期及び第4年次前期に開講する保健師課程科目(公衆衛生看護学実習を除く。)をすべて修得済み、あるいは修得見込みであること。
  - 3 その他の科目についても、履修学生数等を定めることがある。

(単位の計算方法)

**第5条** 科目の単位数は、1単位45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、学習方法に応じ、次の基準により、計算するものとする。

- (1) 講義については、15時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、30時間をもって1単位とすることができる。
- (2) 演習については、30時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、15時間をもって1単位とすることができる。
- (3) 実習、実技及び実験については、45時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては、30時間をもって1単位とすることができる。

(卒業の要件)

**第6条** 看護学科を卒業するためには、4年（転入学生、再入学生については別に定める期間）以上在学し、必修科目と選択科目を併せて128単位以上を修得しなければならない。

(単位認定試験等の受験資格)

**第7条** 学生は、次の各号に該当しなければ、履修する科目の単位認定試験等を受験することはできない。

- (1) 履修する科目の出席時間が、当該科目の授業時間数の3分の2(実習科目にあつては5分の4)以上の者
- (2) 出席時間数が前号に達しない者のうち、担当教員が前号に達した者と同等の能力があると認めた者

(成績の評価)

**第8条** 成績の評価は、試験(定期試験、随時試験)の結果及び授業への取り組み状況等によって判定する。試験は、筆記、口述、レポート、実技等より行われる。成績の表示は100点を満点とし、次の基準により行う。

ただし、看護学実習科目の単位の認定については、別に実習要綱で定める。

100～80点	79～70点	69～60点	60点未満
優	良	可	不可

2 追試験は、定期試験の受験資格を有する者が、疾病その他のやむを得ない理由により定期試験を受けることができなかった場合に、願い出により行う。

ただし、追試験による評価は、前項により行うが、成績の表示は、試験点数の8割とし、次の基準により行う。

80点	79～70点	69～60点	60点未満
優	良	可	不可

3 前項の規定は、当該定期試験が開始されるまでに教育支援課に連絡した場合に適用する。なお、適用を受け追試験を受けようとする者は、所定の追試験受験申請書に医師の診断書その他理由を証する書類を添えて、診断書による療養期間終了後すみやかに学長に提出しなければならない。

4 再試験は、定期試験を受験し不合格となった者に対して、担当教員が認めた場合に限り、願い出により行うことがある。

ただし、再試験による成績の評価は、第1項により行うが、成績の表示は、次の基準により行う。

60点	60点未満
可	不可

5 前項の規定により再試験を受けようとする者は、所定の再試験受験申請書を指定された期日までに学長に提出しなければならない。

(単位の認定)

**第9条** 科目の単位認定は、成績の評価により、優、良及び可を「合格」、不可を「不合格」とし、合格者に対し所定の単位を与えるものとする。

2 単位の認定は、授業科目の担当教員から提出された成績資料に基づき、成績判定会議で審議を行う。

3 成績判定会議は、看護学科教授をもって組織する。

4 単位の認定は、看護学科長が医学部長に報告のうえ学長に報告し、学長が決定するものとし、その結果は、看護学科教授会議で報告するものとする。

(試験における不正行為)

**第10条** 試験において不正行為があったときは、当該科目の試験を無効とする。ただし、不正行為が悪質であると判断された場合は、学則第41条による懲戒処分を行う。

(雑則)

**第11条** この要領に定めるもののほか、科目の履修に関し必要な事項は別に定める。

**附 則**

この要領は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 23 年 4 月 1 日から施行し、改正後の第 4 条第 3 項の規定は、平成 26 年度の履修学生（4 年次生）から適用する。

**附 則**

この要領は、平成 24 年 4 月 1 日から施行し、改正後の第 4 条第 2 項の規定は、平成 27 年度の履修学生（4 年次生）から適用する。

**附 則**

この要領は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。



別表 1 医学部看護学科の教育課程 (令和2年度以降入学生)

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数	
		必修	選択		学年	1年前	1年後	2年前	2年後	3年前	3年後	4年前			4年後
人間・社会の理解	人間発達論	2 *		30	1	■								23	必修 14単位 選択 1単位以上
	医療に関わる倫理学 I	★ 2 *		30	1	■								25	
	臨床心理学	★ 2 *		30	1	■								27	
	教育実践論	★ 2 *		30	1	■								33	
	奈良学	★ 1 *		30	1	■								37	
	次世代医療人育成論	★ 1 *		30	1	■								38	
	カウンセリング論	1 *		30	2			■						85	
	社会福祉と医療法規	★ 2 *		30	1	■								39	
	保健医療福祉行政論 I	1 *		15	3				■					139	
	保健医療福祉行政論 II	●	2	30	3				□					140	
	哲学	★	2	30	1	□								41	
	医療に関わる倫理学 II	★	2	30	1	□								43	
	日本国憲法	※	2	30	1	□								45	
	家族社会学		1	15	2			□						87	
	国際情勢論		2	30	1	□								47	
	異文化論	★	2	30	1	□								49	
国際理解	臨床英語 I	2 *		60	1	■								51	必修 8単位
	臨床英語 II	2 *		60	1	■								53	
	英語表現法 I	1 *		30	2			■						88	
	英語表現法 II	1 *		30	2			■						90	
	アジア文化論	★ 1 *		30	1	■								55	
	西洋文化論	★ 1 *		30	1	■								57	
生活・環境の理解	微生物学	2 *		30	2		■							92	必修 4単位 選択 1単位以上 (生物学または化学から選択)
	疫学		2	30	4						□		173		
	公衆衛生概論	1 *		15	3				■					142	
	保健統計学 I	1 *		15	3				■					143	
	保健統計学 II	●	1	15	3				□					144	
	生物学		1	15	1	□								59	
	化学		1	15	1	□								60	
情報科学	※	2	30	2			□						94		
健康の理解	健康科学	1 *		15	1	■	■							61	必修 23単位
	健康運動学	1 *		45	1	■	■							62	
	人体構造学	2 *		30	1	■								63	
	人体機能学	2 *		30	1	■								65	
	生化学	2 *		30	1		■							67	
	栄養学	2 *		30	1		■							69	
	病態医学 I	2 *		30	1	■	■							71	
	病態医学 II	4 *		60	1		■							73	
	病態医学 III	4 *		60	2			■						96	
	基礎薬理学	1 *		15	1	■								75	
	臨床薬理学	2 *		30	1		■							76	
看護学の基本	看護学概論	1 *		15	1	■								78	必修 13単位
	看護倫理学	1 *		15	2				■					98	
	看護援助の基本	1 *		15	1	■								79	
	看護技術学 I	1 *		30	1		■							80	
	看護技術学 II	1 *		30	2			■						99	
	フィジカルアセスメント	1 *		30	1		■							81	
	健康障害と看護	1 *		15	2			■						100	
	ヘルスアセスメント	1 *		15	2			■						101	
	看護過程論	2 *		30	1		■							82	
	基礎看護学実習 I	1 *		45	1	■	■							83	
	基礎看護学実習 II	2 *		90	2			■	■					102	



目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数	
		必修	選択		学年	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前			後
看護学の展開	成熟看護学	成人看護学概論	2 *		30	2		■						103	必修 42 単位
		成人看護学援助論 I	1 *		30	2		■						105	
		成人看護学援助論 II	1 *		30	2		■						107	
		成人看護学援助論 III	1 *		30	3			■					145	
		成人看護学援助論 IV	1 *		30	3			■					147	
		成人看護学実習 I	3		135	3				■				149	
		成人看護学実習 II	3		135	3				■				150	
	老年看護学	老年看護学概論	2 *		30	2		■						109	
		老年看護学援助論 I	1 *		30	2		■						111	
		老年看護学援助論 II	1 *		30	3			■					151	
		老年看護学実習	4		180	3				■				153	
	育成看護学	小児看護学概論	2 *		30	2		■						113	
		小児看護学援助論 I	1 *		30	2		■						115	
		小児看護学援助論 II	1 *		30	3			■					154	
		小児看護学実習	2		90	3				■				156	
		母性看護学概論	2 *		30	2		■						117	
		母性看護学援助論 I	1 *		30	2		■						119	
		母性看護学援助論 II	1 *		30	3			■					157	
	精神看護学	母性看護学実習	2		90	3				■				159	
		精神看護学概論	2 *		30	2		■						121	
		精神看護学援助論 I	1 *		30	2		■						123	
		精神看護学援助論 II	1 *		30	3			■					160	
	広域看護学	精神看護学実習	2		90	3				■				162	
		公衆衛生看護学概論	2 *		30	2		■						125	
		公衆衛生看護学活動論 I	2 *		30	2		■						127	
		公衆衛生看護学活動論 II	●	2	30	2		□						129	
		公衆衛生看護学活動論 III	●	1	15	2		□						131	
		公衆衛生看護学活動展開論		2	60	4					□			175	
公衆衛生看護学保健指導論 I			2	60	4					□			178		
公衆衛生看護学保健指導論 II			1	30	4					□			180		
産業保健活動論			1	15	4					□			182		
学校保健活動論			1	15	4					□			183		
公衆衛生看護管理論			2	30	4					□			184		
公衆衛生看護学実習 I			2	90	4					□	□		186		
公衆衛生看護学実習 II			3	135	4					□	□		187		
看護学の発展と探究	応用看護学	緩和ケア論	1 *		15	2		■						132	必修 22 単位
		看護管理論	1		15	4					■			188	
		リハビリテーション看護	1 *		15	2		■						134	
		家族看護学	2 *		30	3			■					163	
	統合看護学	在宅看護学概論	2 *		30	2		■						135	
		在宅看護学援助論	2 *		60	3			■					165	
		在宅看護学実習	2		90	3				■				167	
		看護研究特論	1		30	4					■			189	
		看護研究	2		60	4					■			190	
		ヘルスプロモーションと健康教育	2 *		30	3			■					168	
		統合実習	2		90	4					■			191	
		災害看護論	1		15	4					■			193	
		チーム医療論	1		30	4					■			194	
		医療安全	1 *		15	3			■					170	
国際看護論 I	1		30	4					■			196			
国際看護論 II		1	30	4					□	□		-			
合計		126	38			開講時期を ■ または □ で表示。(■は必修、□は選択)								128 単位以上 必修 126 単位 選択 2 単位	

卒業に必要な単位数 128 単位（認定単位を含む）

(注)

- ・ 太枠内の科目は、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な選択科目を示す（22単位）。  
なお、上記の科目履修を希望する者は、あらかじめ2年または3年次開講の保健医療福祉行政論Ⅱ、保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ（授業科目の名称欄の●印、計6単位）を修得しておかなければならない。  
したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は150単位となる。
- ・ 単位数右側の\*印は、看護学科授業科目履修要領第4条第1項第2号に規定する修得必要科目を示す。
- ・ 授業科目の名称の欄の★印は、医学看護学合同教育科目であることを示す。
- ・ 授業科目の名称の欄の※印は、保健師免許を取得後、養護教諭免許を申請予定の者は履修する必要のある選択科目を示す。

別表2 医学部看護学科の教育課程 (平成29年～31年度入学生)

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数	
		必修	選択		学年	1年前	1年後	2年前	2年後	3年前	3年後	4年前			4年後
人間・社会の理解	人間発達論	2*		30	1	■								23	必修 14単位 選択 1単位以上
	医療に関わる倫理学Ⅰ	★2*		30	1	■								25	
	臨床心理学	★2*		30	1	■	■							27	
	教育実践論	★2*		30	1	■								33	
	奈良学	★1*		30	1	■	■							37	
	次世代医療人育成論	★1*		30	1	■								38	
	カウンセリング論	1*		30	2			■						85	
	社会福祉と医療法規	★2*		30	1	■								39	
	保健医療福祉行政論Ⅰ	1*		15	3					■				139	
	保健医療福祉行政論Ⅱ	●	2	30	3					□				140	
	哲学	★	2	30	1	□								41	
	医療に関わる倫理学Ⅱ	★	2	30	1	□								43	
	日本国憲法	※	2	30	1	□								45	
	家族社会学		1	15	3			□						87	
	国際情勢論		2	30	1	□								47	
異文化論	★	2	30	1	□								49		
国際理解	臨床英語Ⅰ	2*		60	1	■							51	必修 8単位	
	臨床英語Ⅱ	2*		60	1	■	■						53		
	英語表現法Ⅰ	1*		30	2			■					88		
	英語表現法Ⅱ	1*		30	2				■				90		
	アジア文化論	★1*		30	1	■							55		
	西洋文化論	★1*		30	1	■							57		
生活・環境の理解	微生物学	2*		30	2			■					92	必修 4単位 選択 1単位以上 (生物学または化学から選択)	
	疫学		2	30	4						□		173		
	公衆衛生概論	1*		15	3					■			142		
	保健統計学Ⅰ	1*		15	3					■			143		
	保健統計学Ⅱ	●	1	15	3					□			144		
	生物学		1	15	1	□							59		
	化学		1	15	1	□							60		
情報科学	※	2	30	2			□					94			
健康の理解	健康科学	1*		15	1	■	■						61	必修 23単位	
	健康運動学	1*		45	1	■	■						62		
	人体構造学	2*		30	1	■							63		
	人体機能学	2*		30	1	■							65		
	生化学	2*		30	1		■						67		
	栄養学	2*		30	1		■						69		
	病態医学Ⅰ	2*		30	1	■	■						71		
	病態医学Ⅱ	4*		60	1		■						73		
	病態医学Ⅲ	4*		60	2			■					96		
	基礎薬理学	1*		15	1	■							75		
臨床薬理学	2*		30	1		■						76			
看護学の基本	看護学概論	1*		15	1	■							78	必修 13単位	
	看護倫理学	1*		15	2				■				98		
	看護援助の基本	1*		15	1	■							79		
	看護技術学Ⅰ	1*		30	1		■						80		
	看護技術学Ⅱ	1*		30	2			■					99		
	フィジカルアセスメント	1*		30	1		■						81		
	健康障害と看護	1*		15	2			■					100		
	ヘルスアセスメント	1*		15	2				■				101		
	看護過程論	2*		30	1		■						82		
	基礎看護学実習Ⅰ	1*		45	1	■	■						83		
	基礎看護学実習Ⅱ	2*		90	2			■	■				102		

目的区分	授業科目の名称	単位数		時間数	配当年次								頁	卒業に必要な単位数	
		必修	選択		学年	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前			後
看護学の展開	成熟看護学	成人看護学概論	2*		30	2		■						103	必修 42 単位
		成人看護学援助論 I	1*		30	2			■					105	
		成人看護学援助論 II	1*		30	2				■				107	
		成人看護学援助論 III	1*		30	3					■			145	
		成人看護学援助論 IV	1*		30	3						■		147	
		成人看護学実習 I	3		135	3							■	149	
		成人看護学実習 II	3		135	3							■	150	
	老年看護学	老年看護学概論	2*		30	2		■						109	
		老年看護学援助論 I	1*		30	2			■					111	
		老年看護学援助論 II	1*		30	3				■				151	
		老年看護学実習	4		180	3						■		153	
	育成看護学	小児看護学概論	2*		30	2		■						113	
		小児看護学援助論 I	1*		30	2			■					115	
		小児看護学援助論 II	1*		30	3				■				154	
		小児看護学実習	2		90	3						■		156	
		母性看護学概論	2*		30	2		■						117	
		母性看護学援助論 I	1*		30	2			■					119	
		母性看護学援助論 II	1*		30	3				■				157	
	母性看護学実習	2		90	3						■		159		
	精神看護学	精神看護学概論	2*		30	2		■						121	
		精神看護学援助論 I	1*		30	2			■					123	
		精神看護学援助論 II	1*		30	3				■				160	
		精神看護学実習	2		90	3						■		162	
	広域看護学	公衆衛生看護学概論	2*		30	2		■						125	
		公衆衛生看護学活動論 I	2*		30	2			■					127	
		公衆衛生看護学活動論 II	●	2	30	2				□				129	
		公衆衛生看護学活動論 III	●	1	15	2				□				131	
		公衆衛生看護学活動展開論		2	60	4						□		175	
公衆衛生看護学保健指導論 I			2	60	4						□		178		
公衆衛生看護学保健指導論 II			1	30	4						□		180		
産業保健活動論			1	15	4						□		182		
学校保健活動論			1	15	4						□		183		
公衆衛生看護管理論			2	30	4						□		184		
公衆衛生看護学実習 I			2	90	4						□	□	186		
公衆衛生看護学実習 II		3	135	4						□	□	187			
看護学の発展と探究	応用看護学	緩和ケア論	1*		15	2			■					132	必修 22 単位
		看護管理論	1		15	4						■		188	
		リハビリテーション看護	1*		15	2			■					134	
		家族看護学	2*		30	3				■				163	
	統合看護学	在宅看護学概論	2*		30	2			■					135	
		在宅看護学援助論	2*		60	3				■				165	
		在宅看護学実習	2		90	3					■			167	
		看護研究特論	1		30	4						■		189	
		看護研究	2		60	4						■		190	
		ヘルスプロモーションと健康教育	2*		30	3				■				168	
		統合実習	2		90	4						■		191	
		災害看護論	1		15	4						■		193	
		チーム医療論	1		30	4						■		194	
		医療安全	1*		15	3				■				170	
		国際看護論 I	1		30	4						■		196	
国際看護論 II		1	30	4						□	□	-			
合計		126	38			開講時期を■または□で表示。(■は必修、□は選択)								128 単位以上 必修 126 単位 選択 2 単位	

卒業に必要な単位数 128 単位 (認定単位を含む)

(注)

- ・太枠内の科目は、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な選択科目を示す (22 単位)。  
 なお、上記の科目履修を希望する者は、あらかじめ 2 年または 3 年次開講の保健医療福祉行政論 II、保健統計学 II、公衆衛生看護学活動論 II・III (授業科目の名称欄の●印、計 6 単位) を修得しておかなければならない。  
 したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は 150 単位となる。
- ・単位数右側の\*印は、看護学科授業科目履修要領第 4 条第 1 項第 2 号に規定する修得必要科目を示す。
- ・授業科目の名称の欄の★印は、医学看護学合同教育科目であることを示す。
- ・授業科目の名称の欄の※印は、保健師免許を取得後、養護教諭免許を申請予定の者は履修する必要がある選択科目を示す。

## 保健師課程のアドミッションポリシー及び履修要領

### 保健師課程アドミッションポリシー

1. 保健師として働きたいという気持ちを強く持っている人
2. 奈良県の保健活動に貢献する意思を有し、へき地の保健活動に強い関心を持っている人
3. 保健師として求められる対人関係能力とコミュニケーション能力を有する人
4. 単独実習及びへき地実習が可能な自律性を持っている人

### 奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領

#### 第4条第2項の選考方法等に関する要領（抜粋）

（趣旨）

第1条 この要領は、奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領（平成16年4月1日施行）第4条第2項に基づき、保健師国家試験受験資格の取得に必要な科目のうち公衆衛生看護学に係る選択科目（以下「保健師科目」という。）の履修方法及び選択できる学生の選考方法について、必要な事項を定めるものとする。

（保健師科目の定義）

第2条 保健師科目の名称及び単位数、時間数は別表1のとおりとする。

（履修の制限等）

第3条 第2条に定める保健師科目のうち、第4年次に開講する科目を履修しようとする者は、第3年次後期までに開講される卒業に必要な必修科目、選択科目の単位をすべて修得していなければならない。

- 2 第2条に定める公衆衛生看護学実習5単位を履修するためには、平成29年度以降の入学生は第2年次後期、第3年次前期及び第4年次前期に開講する保健師科目（公衆衛生看護学実習を除く。）をすべて修得済み、あるいは修得見込みであること。

（履修許可人数）

第4条 保健師科目の履修を許可する人数は20人以内とする。

（選考の時期等）

第5条 第2条の科目履修者の選考は別表2-1及び別表2-2の選考方法により、第3年次後期の看護学臨地実習終了後に行うものとする。

（履修志願手続き）

第6条 第2条の科目を履修しようとする者（以下「志願者」という。）は、所定の期日までに学長に申請するものとする。

附 則

この要領は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1 平成 29 年度以降入学生の保健師科目及び単位数

科 目	年次	単 位
公衆衛生看護学活動論Ⅱ *	2	2
公衆衛生看護学活動論Ⅲ *	2	1
保健医療福祉行政論Ⅱ *	3	2
保健統計学Ⅱ *	3	1
疫学	4	2
公衆衛生看護学活動展開論	4	2
公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	4	2
公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ	4	1
公衆衛生看護管理論	4	2
産業保健活動論	4	1
学校保健活動論	4	1
公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	2
公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	3
	合計	22

\*・・・3 年次末の選抜試験を受け保健師課程の履修を希望する者は、保健師課程選考前に  
\*印がある科目を履修しなければならない。

別表 2-1 平成 29 年度入学生の選考方法

選考方法	内 容
学力評価	<p>以下を学力評価の対象科目とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 年次から 3 年次に履修する実習を除く全ての必修科目</li> <li>・ 保健師選択科目：「公衆衛生看護学活動論Ⅱ、Ⅲ」「保健統計学Ⅱ」「保健医療福祉行政論Ⅱ」</li> </ul>
試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面接試験（個別） 看護学実習評価を面接試験の参考資料とする。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力評価を 80 点、面接試験を 20 点、合計 100 点で評価し成績上位者から選考する。</li> </ul>

別表 2-2 平成 30 年度以降入学生の選考方法

選考方法	内 容
成績評価	<p>以下を成績評価の対象科目とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 年次から 3 年次に履修する実習を除く全ての必修科目</li> <li>・ 保健師選択科目：「公衆衛生看護学活動論Ⅱ、Ⅲ」「保健統計学Ⅱ」「保健医療福祉行政論Ⅱ」</li> </ul>
実習評価	<p>以下を実習評価の対象科目とする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 年次から 3 年次に履修する全ての看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護学実習</li> </ul>
面接試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面接試験（個別）</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成績評価を 60 点、実習評価を 20 点、面接試験を 20 点、合計 100 点とし、合計得点の上位者から選考する。</li> </ul>

## 卒業に必要な単位数

(平成 29 年度以降入学生)

区 分	開設単位数	卒業に必要な単位数		
		必修科目	選択科目	計
人間・社会の理解 (保健師課程)	2 5 (2 7)	1 4 (1 4)	1 (3)	1 5 (1 7)
国際理解	8	8	0	8
生活・環境の理解 (保健師課程)	8 (1 1)	4 (4)	1 (4)	5 (8)
健康の理解	2 3	2 3	0	2 3
看護学の基本	1 3	1 3	0	1 3
看護学の展開 (保健師課程)	4 2 (5 9)	4 2 (4 2)	0 (1 7)	4 2 (5 9)
看護学の発展と探究	2 3	2 2	0	2 2
合計 (保健師課程)	1 4 2 (1 6 4)	1 2 6 (1 2 6)	2 (2 4)	1 2 8 (1 5 0)

( ) 内の数字は保健師国家試験受験資格取得の場合

(注) 保健師国家試験受験資格取得希望者は、疫学、公衆衛生看護学活動展開論、公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ、公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ、産業保健活動論、学校保健活動論、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱを履修することとし、その履修 16 単位のうち、疫学の 2 単位は「生活・環境の理解」、その他の 14 単位は「看護学の展開」の選択科目として取り扱う。

なお、上記の各科目を履修するためには、2 年または 3 年次開講の保健医療福祉行政論Ⅱ、保健統計学Ⅱ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ・Ⅲ (計 6 単位) を修得しておかなければならない。したがって、保健師国家試験受験資格を取得の上、卒業するために必要な単位数は 150 単位となる。

## 6. 4年次開講科目の授業内容



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	選択
担当教員			
佐伯圭吾／大林賢史／山上優紀			
添付ファイル			

目的	疫学は、集団の健康状態や疾病発生の分析から、危険因子や防御因子を発見する。また危険因子を除去し、防御因子を増強することで、健康増進と疾病予防を行う学問である。本講義の目的は、疫学研究の基本的な知識を習得することである。		
目標	保健師として、疫学指標から地域の課題を抽出し、解決策を立案する方法と技術を身につけることを目標とする。主な研究デザインの利点と欠点を理解し、疫学指標を正しく解釈できるようにする。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 疫学研究とは、過去の疫学事例の紹介	講義	佐伯
	第2回 疾病発症モデル／多要因原因説／危険因子と防御因子	講義	佐伯
	第3回 標本抽出、推定、標本サイズと信頼区間、バイアス	講義	佐伯
	第4回 有病率、罹患率、相対危険、寄与危険	講義	佐伯
	第5回 交絡、直接法による年齢調整・SMR（標準化死亡比）	講義	佐伯
	第6回 生態学的研究、横断研究	講義	佐伯
	第7回 症例対照研究、オッズ比	講義	佐伯
	第8回 コホート研究、コホート内症例対照研究	講義	佐伯
	第9回 無作為化比較試験、根拠に基づく医療（EBM）	講義	佐伯
	第10回 がん、循環器疾患の疫学	講義	佐伯
	第11回 睡眠障害の疫学	講義	大林
	第12回 感度・特異度、スクリーニング検査	講義	佐伯
	第13回 疫学演習 1	演習	佐伯・山上
	第14回 疫学演習 2	演習	佐伯・山上
	第15回 環境疫学	講義	佐伯
授業外学修（事前学修・事後学修）	テキストを読み、事前・事後学修に取り組んでもらいたい。		
評価方法・評価基準	期末試験の成績によって評価する。授業態度を成績に考慮することがある。		

テキスト	看護学生のための疫学・保健統計（建帛社）
参考図書	講義中に紹介する。
学生へのメッセージ等	講義中は、積極的に議論に参加してもらいたい。適宜、国家試験対策の練習問題にも取り組む予定である。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	選択
担当教員			
坂東 春美／堀内 沙央里／城島 哲子			
添付ファイル			

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生看護活動において、保健師が効果的な地域保健活動を行うための、地域アセスメントの対象(個人、家族、地域等)の個性と特徴を把握する基礎的能力を養う。</li> <li>・地域アセスメントを実施することで、地域における人々の健康に関する情報を分析し、問題とその背景を明らかにする保健活動の展開プロセス能力を身につける。</li> <li>・ヘルスプロモーションの理念のもとに、地域診断で明確となった健康課題の優先順位をつけ保健活動計画に反映し、施策化するための基礎的能力を養う。</li> </ul>		
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域診断の目的を理解し、地域診断に用いる理論が理解できる。</li> <li>・地域アセスメントに必要な項目を情報収集できる。</li> <li>・収集した統計データを整理し、図表を作成できる。</li> <li>・集積されたアセスメント項目を整理し、健康問題や課題に導く分析過程を理解できる。</li> <li>・地域の健康に関する問題や課題を明確にできる。</li> <li>・地域の健康に関する特性(健康状態、健康構造、健康意識)や、社会資源等を理解し、地域特性を把握できる。</li> <li>・表出された健康問題や課題の中から、地域のもつ強み等を総合的に捉えて、優先順位を決定し、地域保健活動の方向性を見出すことができる。</li> </ul>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回  地域診断の目的 地域診断の展開と方法	講義	坂東
	第2回  地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント1 地域の歴史、自然・地理的環境、地域の制度と施設	講義・演習	坂東
	第3回  地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント2 地域の歴史、自然・地理的環境、地域の制度と施設	講義・演習	坂東
	第4回  地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント3 地域の歴史、自然・地理的環境、地域の制度と施設	演習	坂東・領域教員
	第5回  地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント4 地域の歴史、自然・地理的環境、地域の制度と施設	演習	坂東・領域教員
	第6回  地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント5 人口、家族、労働者の構成と健康指標	講義・演習	坂東
	第7回  地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント6 人口、家族、労働者の構成と健康指標	講義・演習	坂東
	第8回  地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント7 人口、家族、労働者の構成と健康指標	演習	坂東・領域教員
	第9回  地域特性(地域構造のモデル、地域概要の情報収集と分析)のアセスメント8 人口、家族、労働者の構成と健康指標	演習	坂東・領域教員

第10回	地域アセスメント情報の関連性と整理 1 地域特性の整理と課題の抽出	講義・演習	坂東
第11回	地域アセスメント情報の関連性と整理 2 地区踏査の実践方法と計画	講義・演習	坂東
第12回	地域アセスメント情報の関連性と整理 3 地区踏査計画書	講義・演習	坂東
第13回	地区踏査 1 (実習市町村)	演習	坂東・領域教員
第14回	地区踏査 2 (実習市町村)	演習	坂東・領域教員
第15回	地区踏査 3 (実習市町村)	演習	坂東・領域教員
第16回	地区踏査 4 (実習市町村)	演習	坂東・領域教員
第17回	地区踏査のまとめ1	講義・演習	堀内/坂東
第18回	地区踏査のまとめ2	講義・演習	堀内/坂東
第19回	保健事業に関連する健康指標の収集とアセスメント1	講義・演習	堀内/坂東
第20回	保健事業に関連する健康指標の収集とアセスメント2	講義・演習	堀内・領域教員
第21回	保健事業に関連する健康指標の収集とアセスメント3	講義・演習	堀内・領域教員
第22回	保健事業に関連する健康指標の収集とアセスメント4	講義・演習	堀内/坂東
第23回	健康課題に関連する情報の統合1	講義・演習	堀内/坂東
第24回	健康課題に関連する情報の統合2	講義・演習	堀内・領域教員
第25回	健康課題に関連する情報の統合3	講義・演習	堀内/坂東
第26回	事業計画・評価計画1	講義・演習	堀内/坂東
第27回	事業計画・評価計画2	講義・演習	堀内・領域教員
第28回	事業計画・評価計画3	講義・演習	堀内/坂東
第29回	課題解決のための情報収集1	講義・演習	堀内/坂東
第30回	課題解決のための情報収集2	演習	堀内・領域教員
授業外学修 (事前学修・事後学修)	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストの指定箇所を確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義から自己のノートと配布資料等をもとに内容をまとめ、整理しておく。		

評価方法・評価基準	評価方法：各回の講義内容で指定する課題1から課題9までのレポート 評価基準：提出された課題レポートにより、講義目標の内容に関する到達度を測る
テキスト	1) 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院 2) 地域看護アセスメントガイド 佐伯和子編著 医歯薬出版株式会社 3) 国民衛生の動向
参考図書	1) 地域看護診断 東京大学出版 2) 保健師業務要覧 日本看護協会出版会
学生へのメッセージ等	公衆衛生看護学実習において、地域を理解するために最重要な講義・演習であり、積極的な取り組みと幅広い視点を持って臨んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	選択
担当教員			
坂東 春美／中川 仁／中谷 敏昭／岩橋 明子／野原 潤子			
添付ファイル			

目的	国民的課題である生活習慣病対策の重点項目である栄養指導法を学び、行動変容に結び付ける指導技術を理解するとともに、メタボリックシンドローム改善のための運動指導法と高齢者のための運動指導法について実践的技術を習得する。 特定健康診査・特定保健指導に必要な知識・技術を習得する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病判定基準と、治療指針について基本的な知識を学ぶ</li> <li>特定保健指導対象者の栄養診断方法が理解できる</li> <li>栄養指導に用いる媒体の使い方を、指導方法が理解できる</li> <li>特定保健指導対象者に対する運動指導法が理解できる</li> <li>高齢者の特性に配慮した介護予防を目指した運動指導法が理解できる</li> <li>特定保健指導（動機づけ支援・積極的支援）の技術を学ぶ</li> </ol>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 ガイダンス	講義	坂東
	第2回 保健指導とは	講義	坂東
	第3回 高血圧の診断基準と治療ガイドライン	講義	中川
	第4回 特定保健指導対象者への栄養指導① 対象者の栄養診断の実際	講義	岩橋/坂東
	第5回 特定保健指導対象者への栄養指導② 栄養指導の方法・技術	講義・演習	岩橋/坂東
	第6回 特定保健指導対象者への栄養指導③ 栄養指導の方法・技術	講義・演習	野原/坂東
	第7回 特定保健指導対象者への栄養指導④ 栄養指導の方法・技術	講義・演習	野原/坂東
	第8回 特定保健指導対象者への運動指導① 基本的考え方	講義・演習	中谷/坂東
	第9回 特定保健指導対象者への運動指導② 運動指導の実際	講義・演習	中谷/坂東
	第10回 高齢者の介護予防のための運動指導③ 基本的考え方・注意点	講義・演習	中谷/坂東
	第11回 高齢者の介護予防のための運動指導④ 運動指導の実際	講義・演習	中谷/坂東
	第12回 特定健康診査による生活習慣病スクリーニングと保健指導①	講義	坂東
	第13回	講義・演習	坂東

	保健指導計画の作成①		
第14回		講義・演習	坂東
	保健指導計画の作成②		
第15回		講義・演習	坂東
	保健指導計画の作成③		
第16回		講義・演習	坂東
	保健指導計画の作成④		
第17回		講義・演習	坂東
	保健指導の計画 発表		
第18回		講義	坂東
	特定健康診査による生活習慣病スクリーニングと保健指導②		
第19回		講義・演習	坂東
	保健指導計画の作成⑤		
第20回		講義・演習	坂東
	保健指導計画の作成⑥		
第21回		講義・演習	坂東
	保健指導計画の作成⑦		
第22回		講義・演習	坂東
	保健指導計画の作成⑧		
第23回		講義・演習	坂東
	保健指導の計画 発表		
第24回		講義	坂東
	介護予防のための保健指導		
第25回		講義・演習	坂東
	保健指導計画の作成⑨		
第26回		講義・演習	坂東
	保健指導計画の作成⑩		
第27回		講義・演習	坂東
	保健指導計画の作成⑪		
第28回		講義・演習	坂東
	保健指導計画の作成⑫		
第29回		講義・演習	坂東
	保健指導の計画 発表		
第30回		講義	坂東
	まとめ		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストの指定箇所を確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義から自己のノートと配布資料等をもとに内容をまとめ、整理しておく。		
評価方法・評価基準	評価方法：各回の講義内容で指定する課題1から課題5までのレポート 評価基準：提出された課題レポートにより、講義目標の内容に関する到達度を測る		
テキスト	1 標準保健師講座② 公衆衛生看護技術 医学書院 2 第三期 特定健診・特定保健指導ガイド 門脇 孝，津下 一代 南山堂 2018		
参考図書			
学生へのメッセージ等	保健指導の実践能力を修得する科目です。また、公衆衛生看護学実習と直結します。積極的に学んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	選択
担当教員			
坂東 春美／堀内 沙央里			
添付ファイル			

目的	保健師が行う乳幼児健診等での問診および保健指導と、家庭訪問の技術を習得する。		
目標	1. 乳幼児健康診査における問診および保健指導の技術が理解できる 2. 母子保健、難病保健、感染症保健に関する家庭訪問のプロセスと援助技術が理解できる		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 乳幼児健康診査の実施と家庭訪問の計画立案	講義・演習	坂東
	第2回 乳児健康診査 1 問診、保健指導①	講義・演習	坂東
	第3回 乳児健康診査 2 問診、保健指導②	講義・演習	坂東
	第4回 乳児健康診査 3 問診、保健指導③	講義・演習	坂東
	第5回 幼児健康診査 1 1歳～3歳：問診、保健指導①	講義・演習	坂東
	第6回 幼児健康診査 2 1歳～3歳：問診、保健指導②	講義・演習	坂東
	第7回 幼児健康診査 3 1歳～3歳：問診、保健指導③	講義・演習	坂東
	第8回 幼児健康診査 4 1～3歳：問診、保健指導④	講義・演習	坂東
	第9回 新生児訪問 1 準備、実施、評価方法①	講義・演習	坂東
	第10回 面接・家庭訪問演習1 妊娠届、妊婦訪問の実施	講義・演習	堀内/坂東
	第11回 面接・家庭訪問演習2 新生児・乳児訪問（実施・評価）	講義・演習	堀内/坂東
	第12回 面接・家庭訪問演習3 継続訪問（計画・実施・評価）	講義・演習	堀内/坂東
	第13回 乳幼児健診演習1 4か月、8～10か月、1歳6か月、3歳児健康診査	講義・演習	堀内/坂東
	第14回 乳幼児健診演習2 4か月、8～10か月、1歳6か月、3歳児健康診査	講義・演習	堀内/坂東
	第15回 事例展開演習 ハイリスク事例の支援	講義・演習	堀内/坂東
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストの指定箇所を確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義から自己のノートと配布資料等をもとに内容をまとめ、整理しておく。		
評価方法・評価基準	評価方法：授業内で実施する小レポート（60%） 演習の参加度と理解度（40%） 評価基準：小レポートは各テーマに対する思考が記述されているか 演習は参加態度と講義目標の内容に関する理解度を測る		



テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院</li> <li>2. 写真で見る 乳幼児健診の神経学的チェック法 前川喜平・小枝達也 南山堂</li> </ol>
参考図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児健診マニュアル 福岡地区小児科医師会 乳幼児保健委員会 (著)</li> <li>2. 保健師業務要覧 日本看護協会出版会</li> </ol>
学生へのメッセージ等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師として実践する保健事業に必要な知識と技術を習得します。</li> <li>・公衆衛生看護学実習を行う上で基礎的な講義となります。</li> </ul>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	選択
担当教員			
城島 哲子／河田 志帆			
添付ファイル			

目的	職域における保健・看護活動を学ぶ。産業保健に関連する制度・法的根拠を理解するとともに、産業看護師の役割と活動を理解する。		
目標	1) 産業保健の職域の現状と、そこで働く人々の健康問題が理解できる 2) 労働衛生に関連する法令と、事業所における健康管理体制が理解できる 3) 事業所における産業看護師・衛生管理者・保健師の活動が理解できる		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 産業保健の理念と目的、歴史	講義	河田
	第2回 産業保健の法体系・行政のしくみ	講義	河田
	第3回 事業場の安全衛生管理のしくみ	講義	河田
	第4回 労働者の健康課題の変遷と対策	講義	河田
	第5回 産業看護活動 事業所の健康課題のアセスメント	講義	城島
	第6回 産業看護活動 事業所の職場環境改善支援 計画立案	講義	城島
	第7回 産業看護活動 健康診断と保健指導・メンタルヘルス対策	講義	城島
	第8回 産業保健実習の進め方 (デサント社 予定)	演習	城島
授業外学修 (事前学修・事後学修)	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストを学習し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義のノートと配布資料をもとに内容をまとめ整理しておく。		
評価方法・評価基準	出席日数で受験資格を判定し、定期試験もしくはレポートで成績評価する。		
テキスト	1. 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動 医学書院		
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民衛生の動向</li> <li>・公衆衛生が見える 2018/2019? : メディック・メディカ</li> <li>・産業看護学第2版2020年版：河野啓子：日本看護協会出版会</li> <li>・保健の実践科学シリーズ 産業看護学 2016年：池田智子編集：講談社</li> </ul>		
学生へのメッセージ等	保健師課程履修者の必須科目です。公衆衛生看護学実習Ⅰ（産業保健）の準備科目でもあるのでしっかりと学んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	選択
担当教員			
古川 恵美			
添付ファイル			

目的	学校における看護活動を学ぶ。学校保健に関連する制度・法的基盤を理解するとともに、養護教諭の役割と活動を理解する。		
目標	1) 各種学校の特徴と、児童生徒等の年齢に特有の健康問題が理解できる 2) 学校保健に関連する法令と学校保健体制が理解できる 3) 課題演習をととして学校看護活動の理解を深める		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回  学校保健の現状と課題 関係法規・校種別の特徴など	講義	古川
	第2回  学校教育における組織的な学校保健活動 児童生徒のライフステージの特徴とそれに応じた支援	講義	古川
	第3回  養護教諭をとりまく現状とその職務 学校と地域における関連する他機関との連携・協働	講義	古川
	第4回  養護教諭の視点から考える保健室経営	講義	古川
	第5回  養護教諭の視点から考える保健管理	講義	古川
	第6回  養護教諭の視点から考える保健学習	講義	古川
	第7回  特別支援教育	講義	古川
	第8回  学校安全、危機管理	講義	古川
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に単元に関する教科書の箇所を全て精読してから講義に臨むこと。		
評価方法・評価基準	評価方法：授業内で実施する小レポート3回（50%）、期末レポート（50%） 評価基準：小レポートは、テーマ毎の内容を理解し、自分なりの問題意識を持つことができているか。期末レポートは、主題について学んだ内容が整理されており、どのように学んでいくか自己の考えが提示されているか。		
テキスト	1 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動：医学書院		
参考図書	授業中に提示します。		
学生へのメッセージ等	児童生徒が示す健康課題を受け止め、課題解決に向けた教育活動の実践が養護教諭の役割です。ぜひ、あなたの養護教諭像をつかんでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	選択
担当教員			
城島 哲子/朽木 悦子			
添付ファイル			

目的	地域住民の健康を保障するために、生活と健康に関する社会資源の公平な利用と配分を促進する公衆衛生看護管理の活動方法が理解できる。		
目標	1. 健康危機管理の理念と目的、制度とシステム、健康課題、展開方法が理解できる 2. 災害保健活動の法整備の歴史、ステージ別の活動内容、災害の種類に応じた課題が理解できる 3. 公衆衛生看護管理の意義と活動方法が理解できる		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 健康危機管理 1 定義 主なる事例紹介	講義	城島
	第2回 健康危機管理 2 保健所と保健師の役割 「地域健康危機管理ガイドライン」	講義	城島
	第3回 健康危機管理 3 森永ヒ素ミルク中毒事件とは	講義	城島
	第4回 健康危機管理 4 放射線災害 三春町の事例	講義	城島
	第5回 災害保健活動 1 災害ステージ分類 新潟中越沖地震 外部支援者の受け入れ	講義	城島
	第6回 災害保健活動 2 阪神淡路大震災 DMATの必要性	講義	城島
	第7回 災害保健活動 3 東日本大震災から学ぶ 津波被害への対応	講義	城島
	第8回 災害保健活動 4 熊本直下型地震から学ぶ DHEAT「災害時健康危機管理支援チーム」	講義	城島
	第9回 災害保健活動 5 リスクコミュニケーション 住民と共に学ぶ「クロスロードゲーム」	演習	城島
	第10回 公衆衛生看護管理 1 公衆衛生看護管理の8機能 保健医療福祉計画の策定	講義	城島
	第11回 公衆衛生看護管理 2 自治体予算のしくみと獲得方法 人材育成と人事管理 キャリアラダー	講義	城島
	第12回 公衆衛生看護管理 3 統括保健師の役割 県と市町村の保健師の在り方	講義	城島
	第13回 公衆衛生看護管理 4 自治体予算の仕組み	講義 演習	城島
	第14回 公衆衛生看護管理 5 演習 担当地域の事業企画と予算書の作成	演習	朽木 城島
第15回 公衆衛生看護管理 5 演習 報告会	講義	朽木 城島	

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の講義内容にそって指定テキストを確認し、自ら概要を把握しておく。 事後学修：各回の講義ノートと配布資料をもとに内容をまとめ、整理しておく。
評価方法・評価基準	評価方法：出席日数で受験資格を判定し、定期試験と授業レポートにより成績評価する。 授業参加度を加味して評価する。 評価基準：定期試験では、講義内容に関する理解度を測る。授業レポートについては、テーマについて講義内容を踏まえて自身の考えを述べることができているかを評価する。
テキスト	1. 標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 (第4版) 医学書院 2. 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動 (第4版) 医学書院
参考図書	1 最新地域看護学 各論2 「地域看護管理活動論」 日本看護協会出版会 2 公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術 医歯薬出版株式会社
学生へのメッセージ等	公衆衛生看護管理は、行政保健師にとっては新人期から必要とされる知識、技術といわれています。授業と演習で学んだ知識を活かして、公衆衛生看護学実習Ⅰ「へき地における災害保健活動」で実践を学びます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年	2	選択
担当教員			
坂東 春美／堀内 沙央里／城島 哲子			
添付ファイル			
目的	地域で生活する個人・家族とそれらが所属する・集団を対象に、健康と生活の質を高める支援を行い、地域全体の健康増進と疾病予防を目指す県・事業所で働く保健師による公衆衛生看護活動と、学校保健における養護教諭の活動を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 管轄するポピュレーション（集団）の健康課題を明らかにする方法が理解できる</li> <li>2 個人・家族・集団・地域の健康問題を解決する方法を記述できる</li> <li>3 個人・家族・集団・の健康問題に対する支援に参加できる</li> <li>4 既存の事業・参加した支援の効果を評価し、改善策を考察できる</li> </ol>		
授業計画	<p>公衆衛生看護学実習 I（2単位）は、保健所、へき地、産業、学校保健の分野で行います。</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健所実習： <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問、相談業務、管轄市町村の広域的地域診断</li> <li>・特定集団に対する支援（医療的ケア児、がん患者、難病、結核、感染症など）</li> <li>・奈良県保健研究センター 見学実習</li> <li>・奈良県精神保健福祉センター 見学実習</li> <li>・奈良県公衆衛生学会 見学実習</li> </ul> </li> <li>2 へき地実習：1日～2日 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良県郡部の自然災害被災地域で、災害各期の対応、復興の経過、防災計画を学ぶ</li> </ul> </li> <li>3 産業実習：2日 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所がおこなう産業保健活動を学ぶ</li> <li>・産業医・衛生管理者・保健師が行う業務に学ぶ</li> </ul> </li> <li>4 学校実習：2日 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校がおこなう児童の健康管理と養護教諭の職務を学ぶ</li> </ul> </li> </ol>		
授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>事前学修：各回の実習内容にそって、指定テキストの指定箇所やこれまでの講義で得た資料等を確認し、自ら概要を把握しておく。</p> <p>事後学修：各回の実習内容から自己の記録と指導者や教員から得た助言等をもとに内容をまとめ、整理しておく。</p>		
評価方法・評価基準	<p>評価方法：実習前の事前レポート（15%） 実習の参加度と理解度（85%）</p> <p>評価基準：事前レポートは各テーマに対する思考が記述されているか 実習は参加態度と実習目標の内容に関する理解度を測る</p>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 医学書院</li> <li>2 標準保健師講座② 地域看護技術 医学書院</li> <li>3 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動 医学書院</li> </ol>		
参考図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国民衛生の動向 厚生統計協会</li> <li>2 公衆衛生が見える MEDIC MEDIA</li> <li>3 公衆衛生看護学. J P 第4版 データ更新版 インターメディカル</li> </ol>		
学生へのメッセージ等	公衆衛生看護学実習 I では、保健所、へき地、産業、学校の公衆衛生看護活動に参加します。へき地実習では宿泊する可能性があります。学校実習は出身校に自分で実習の交渉をおこないます。主体的な態度で実習に取り組んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年	3	選択
担当教員			
坂東 春美／堀内 沙央里／城島 哲子			
添付ファイル			
目的	地域で生活する個人・家族とそれらが所属する集団を対象に、健康と生活の質を高める支援を行い、地域全体の健康増進と疾病予防を目指す市町村保健師による公衆衛生看護活動を学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 住民の生活実態と健康状態をアセスメントできる</li> <li>2 個人・家族・集団・地域の健康問題を解決するための方法を記述できる</li> <li>3 個人・家族・集団の健康問題に対する支援を実施できる</li> <li>4 既存の事業、実施した支援の効果を評価し、改善策を考察できる</li> </ol>		
授業計画	<p>公衆衛生看護学実習Ⅱ（3単位）は市町村で行います。保健センター・役場と、地域包括支援センター、子育て世代包括支援センター、保育所・幼稚園、小・中学校、高齢者福祉センターなど、住民の健康を支援する市町村機関や、関係機関で実習します。</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健センター・健康増進課等で行う業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問、相談、健診・検診、健康教育、地域診断</li> <li>・グループ支援・組織育成・関係機関との協働、健康危機管理（災害対応・虐待対応など）</li> </ul> </li> <li>2 地域包括支援センター等で行う業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険に関する業務、介護予防事業、高齢者虐待・高齢者の権利擁護に関すること など</li> </ul> </li> <li>3 保険課等で行う業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民健康保険に関する業務、国保データヘルス計画策定・評価に関すること</li> <li>・特定健康診査に関連するヘルスアップ事業、個別指導など</li> </ul> </li> <li>4 子育て世代包括支援センターで行う事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊産婦と乳幼児の支援</li> <li>・安心して妊娠・出産・子育てができる「地域づくり」のための連絡調整・連携、協働、資源開発</li> </ul> </li> </ol>		
授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>事前学修：各回の実習内容にそって、指定テキストの指定箇所やこれまでの講義で得た資料等を確認し、自ら概要を把握しておく。</p> <p>事後学修：各回の実習内容から自己の記録と指導者や教員から得た助言等をもとに内容をまとめ、整理しておく。</p>		
評価方法・評価基準	<p>評価方法：家庭訪問の準備と実施（20%）  健康教育の準備と実施（30%）  地域診断の情報収集とアセスメント（20%）  各事業参加態度と保健計画の理解等（30%）</p> <p>評価基準：家庭訪問・健康教育・地域診断は事前準備と実施（アセスメント）が行えるか  実習記録は参加態度と実習目標の内容に関する理解度を測る</p>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 医学書院</li> <li>2 標準保健師講座② 地域看護技術 医学書院</li> <li>3 標準保健師講座③ 対象別公衆衛生看護活動 医学書院</li> </ol>		
参考図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国民衛生の動向 厚生統計協会</li> <li>2 公衆衛生が見える MEDIC MEDIA</li> <li>3 公衆衛生看護学. J P 第4版 データ更新版 インターメディカル</li> </ol>		
学生へのメッセージ等	公衆衛生看護学実習Ⅱでは公衆衛生看護学展開論で学習した地域診断をもとに、地区特性を踏まえた公衆衛生看護活動について学習します。家庭訪問、個別面接、健康教育を実践するとともに、実習で得た情報を加えて地域診断レポートを完成させます。全力で取り組んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	必修
担当教員			
川上 あずさ／撫養 真紀子／橋口智子／ /平島規子／ 田中奈那			
添付ファイル			

目的	看護職および看護組織の役割・機能を理解し、看護管理における現状と課題について理解を深め、保健医療福祉において看護専門職が力を発揮していくための考え方を養う。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における専門職の理論を学び、看護専門職について理解できる。</li> <li>2. 看護管理の基礎的な理論や内容、看護サービスの質保証の意義を理解できる。</li> <li>3. 看護における組織体制とその役割・機能について説明できる。</li> <li>4. 看護サービスのマネジメント・プロセスについて理解できる。</li> <li>5. 背景にある社会情勢や医療制度の変化をふまえたうえで、看護管理における現状と課題及び将来展望について考察できる。</li> </ol>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 看護専門職と看護管理	講義	撫養
	第2回 リーダーシップとフォロワーシップ	講義 グループワーク	撫養
	第3回 組織変革の方法と変革理論	講義 グループワーク	撫養
	第4回 看護専門職のキャリア開発	講義	撫養
	第5回 看護サービスに対する管理と実際1	講義	田中
	第6回 看護サービスに対する管理と実際2	講義	平島
	第7回 看護サービスに対する管理と実際3	講義	橋口
	第8回 看護の専門性とは	講義 グループワーク	川上
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修として、テキストの授業内容に該当する範囲を読んでおくこと。 事前学修として、授業時の資料を確認しながら内容をふかめること。		
評価方法・評価基準	前半4回分の課題レポート50%、後半4回分は、定期試験と課題で50%の評価とします。		
テキスト	手島恵編集：看護管理学、南江堂		
参考図書	授業の中で適宜紹介する。		
学生へのメッセージ等	社会、経済状況についても平素から関心をもち講義内容に関連する文献や記載物を読んでください。		



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期前半	4年	1	必修
担当教員			
看護学科教員(コーディネーター:教育部長(川上あずさ))			
添付ファイル			

目的	既習の諸学および領域実習、統合実習等において得た知識や思考を活用し、研究テーマの絞り込みから研究計画書の作成までの行程を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の意義と研究のプロセスを説明できる。</li> <li>2. 文献検討の意義を理解し、データベースを用いて文献検索ができる。</li> <li>3. 研究デザインの種類と研究計画書の形式を理解し、研究計画書を作成できる。</li> <li>4. 量的・質的研究の方法について述べるができる。</li> <li>5. 看護研究の倫理を述べるができる。</li> <li>6. 研究論文の作成と発表方法について、説明できる。</li> </ol>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 看護研究の意義と研究のプロセス	講義	石澤美保子
	第2回 研究課題と文献検討	講義	澤見一枝
	第3回 文献検索の方法	講義	図書館司書(教育部長)
	第4回 研究デザインと研究計画書	講義	田中登美
	第5回 質的研究のデータ収集と分析方法	講義	川上あずさ
	第6回 看護研究における倫理	講義	五十嵐稔子
	第7回 量的研究のデータ収集と分析方法	講義	小竹久実子
	第8回 研究成果のまとめと発表方法	講義	風間真理
	第9回 第9回～第15回 配置された各領域において、看護研究の基盤となる内容を文献検討し、グループ討議などを通して学習を深め、研究計画書を完成させる。 *ただし、領域により別途時間を変更することもある。	演習	看護学科教員
授業外学修(事前学修・事後学修)	事前学修として、各回の授業内容に該当するテキスト「看護における研究」の範囲を読み、内容を把握しておく。 事後学修として、授業時の配布資料を活用し授業内容を振り返って理解を深める。 9回目以降は、各自の取組が重要になるので、担当教員と相談してすすめる。		
評価方法・評価基準	研究計画書および演習への参加状況により、総合的に評価する。		
テキスト	看護における研究(第2版), 南裕子、野嶋佐由美(編), 日本看護協会出版会, 2017.		
参考図書	これからの看護研究-基礎と応用-(第3版), 小笠原知枝、松本光子著編, ヌーベルヒロカワ, 2012. 看護研究(第2版), D.F. ポーリット&C.T. ベック著, 近藤潤子監訳, 医学書院, 2010.		
学生へのメッセージ等	看護研究特論は、第1回目から第8回目までの講義終了後に研究計画書作成が始まります。その後の看護研究発表、論文作成までの大切な学びの基礎となりますのでしっかり学習してください。		

講義科目名称： 看護研究

授業コード： K090820

英文科目名称： Nursing Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	2	必修
担当教員			
看護学科教員(コーディネーター:成人慢性期看護学領域)			
添付ファイル			
目的	看護実践における研究的態度を養い、研究の必要性、目的、方法論等を学習すると共に、看護実践の創造的な開発と専門性を深めるための基礎能力を身につける。		
目標	1) 疑問や興味、関心を持った看護上の現象や問題点に着目し、研究課題を決めることができる。 2) 自らが選択した研究のテーマについて、データの収集、解析、解釈、結果、考察を通して得た知見を研究論文としてまとめる。 3) 論文にまとめる過程を通して論理的思考や科学的思考とは何かを説明できる。 4) これらの過程を経て看護研究の意義、方法、活用法を説明できる。		
授業計画	時間割は前期(水)1・2時限、後期(水)2時限におくが指導教員により変更がありえる。		
授業外学修(事前学修・事後学修)	本授業の開始に向けての事前学修として、本授業の目的が達成できるよう、今までの学びをまとめ、疑問や興味、関心を持った看護上の現象や問題点を整理してみましょう。各自が着目した研究課題についての研究プロセスにおいては、担当領域の教員・グループの他学生から積極的に意見を求めて主体的に取り組んでいきましょう。		
評価方法・評価基準	教員または学生間の討論、論文を対象に、担当教員が次の観点から評価を行う。 1) 研究の着眼点、意義、必要性 2) 研究課題に対する探究方法の適切性 3) 研究の独自性 4) 論文の論理性、明瞭性、簡潔性 5) 論文としての形式条件の充足性 6) 研究に取り組む積極性、主体性		
テキスト	担当教員が授業中に適宜紹介する。		
参考図書	看護における研究(第2版), 南裕子、野嶋佐由美(編), 日本看護協会出版会, 2017.		
学生へのメッセージ等	看護研究は学士課程の集大成として、自ら積極的に取り組みましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	必修
担当教員			
看護学科教員			
添付ファイル			

目的	既習した知識、技術、態度を統合し、創造的、探求的思考と対象を尊重した看護実践能力を進展させる。統合実習を通して、看護の専門性について考え、自らの看護観を深める。
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の個別性に配慮した看護を深めることができる。複数の対象者の援助の優先順位とその根拠を考えることができる。</li> <li>2. 看護の質を保证するための医療安全や危機管理の実際がわかる。</li> <li>3. 看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップの実際を学び、看護をマネジメントする方法がわかる。</li> <li>4. 保健・医療・福祉との連携、チーム医療および他職種との協働の実際がわかる。</li> <li>5. 学習課題の達成を目指して、主体的に実習に取り組むことができる。</li> </ol>
授業計画	<p>5月31日（月）～ 6月25日（金） （上記期間のうちの2週間、日程は後日）</p> <p>○成人慢性期（13-15名） ①医大C5病棟 ②医大C7病棟 ③医大B8病棟</p> <p>○成人急性期（13-15名） ①医大C6病棟 ②医大B4病棟 ③医大B6病棟 ④医大中央手術部</p> <p>○老年（13-15名） ①医大B7病棟 ②医大B5病棟 ③済生会中和病院（地域包括ケア病棟）</p> <p>○母性（13名） ①医大E5病棟 ②奈良県内助産所2ヶ所 ③地域母子保健探索 他</p> <p>○小児（13名） ①医大E7病棟（小児センター） ②医大E4病棟（新生児集中治療部）</p> <p>○精神（13名） ①医大精神医療センター2階病棟 ②医大精神医療センター3階病棟 ③医大精神医療センター1階相談室 ④国立病院機構やまと精神医療センター5病棟（医療観察法病棟）</p> <p>○在宅（8名） ①橿原訪問看護ステーション ②橿原訪問看護ステーションやわらぎの郷 ③ゆい訪問看護ステーション ④医大入退院支援センター ⑤西の京病院患者支援センター</p> <p>実習方法・スケジュール 1) 4月のガイダンスでアンケートにより領域を決定する。 2) 詳細は各領域の統合実習要項を参照のこと。</p>
授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>【事前学修】 ①1～3年における学内および臨床実習での学びを振り返り、選択した領域での統合実習において目的を達成するための自分の学習課題を抽出する。 ②自分の学習課題を解決するための目標を明確にしたうえで具体的に学習を進める。</p> <p>【事後学修】 ①統合実習での学びをまとめて、卒業時点での自分の学習課題を明確にして、解決できるよう取り組む。 ②卒業後の看護者としての自分の学習課題および今後の展望を検討する。</p>
評価方法・評価基準	規定の実習時間の4/5以上出席できていることを前提とし、実習目標の到達度、実習への取り組み・出席状況、実習記録内容、カンファレンスの参加状況等により総合的に評価する。
テキスト	

参考図書	
学生へのメッセージ等	統合実習は、看護学の発展と探究を目的に、これまでに学んだ知識・技術・態度の統合に加えて看護管理、医療安全、チーム医療、関係職種との連携などの実際を学ぶ幅広い実習内容になります。最終学年での仕上げの実習でもありますので、目標達成に向けて積極的に取り組みましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	1	必修
担当教員			
西上 あゆみ			
添付ファイル			

目的	災害看護を行うためには、災害に関する看護独自の知識や技術を用いることや他の専門分野と協力して活動していくことが必要である。この活動を行うためにまず災害について理解し、さらに災害サイクルに応じた人への影響、災害時に特徴的な看護課題や看護ニーズを学ぶ。		
目標	災害の各段階の特徴を概観し、災害時に特徴的な健康課題や看護ニーズ、看護職の役割、国内外の災害看護活動を知ることができる。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 災害とは 1) 災害の定義と分類・特性 2) 災害サイクルと各期の特徴	講義	西上
	第2回 災害看護とは 1) 災害看護の定義 2) 災害時のニーズアセスメント 3) 災害時に特徴的な健康問題	講義	西上
	第3回 災害中・長期の看護 1) 避難所における看護活動 2) 中・長期における健康問題	講義	西上
	第4回 こころのケア 1) 被災者の心理 2) 災害時のストレス反応やPTSD 3) 被災者のメンタルケア	講義	西上
	第5回 要援護者へのケア 1) 災害時に子どもに起こること 2) 災害時に妊産婦に起こること 3) 災害時に慢性疾患患者に起こること 4) 災害時に高齢者に起こること	講義	西上
	第6回 災害への備え 1) 自己防災 2) 病院防災 3) 地域防災 4) ネットワークの構築	講義	西上
	第7回 救援活動(国内・国際) 1) 災害に対する国内の体制 2) 災害に対する国際的な体制 3) 支援活動 4) 救護者へのケア	講義 演習	西上
	第8回 まとめ (レポートの振り返りを含む)	講義 テスト	西上
授業外学修(事前学修・事後学修)	事前学修：集中講義となる為、テキストは一読の上、講義に臨んでください。 事後学修：テキストでは「学習の振り返り」と国家試験の過去問題が示されているため、これに取り組んでおく。		
評価方法・評価基準	評価方法：授業への参加状況とレポート(40%)、テスト(60%)。 評価基準：参加状況については出席カードへのコメントで学んだ内容が理解できているか、レポートでは課題について学んだ内容が記載され、授業中での振り返りを通して、加筆修正までできているかで評価する。		
テキスト	三澤寿美・太田晴美：災害看護、学研		
参考図書	酒井明子：ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(3)：災害看護 第3版、メディカ出版 日本看護協会出版会編集部 編：ルボ・そのとき看護は ナース発 東日本大震災レポート、日本看護協会出版会 黒田裕子・神崎初美：避難所・仮設住宅の看護ケア、日本看護協会出版会		
学生へのメッセージ等	提出物は期限を厳守して下さい。日頃から災害に関するニュース記事などに興味を持って、より災害看護に対する考え方や理解が深められるようにしておいて下さい。授業時間内の積極的な質問を歓迎します。授業後についてはメールを頂ければ、その都度対応いたします。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	必修
担当教員			
太田 豊作			
添付ファイル			

目的	保健・医療・福祉の統合が求められる社会状況において、医療チームの成員が互いに協力して、1つの問題に対して多職種がそれぞれの専門的立場からアプローチし、意見を交換することによって全人的治療は実現する。他の専門職種を理解し、良好な医療チームがどのように形成されるかを学ぶ。		
目標	1) チーム医療とはなにかについて学ぶ 2) 他職種を理解する		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 チーム医療概論	講義	太田
	第2回 専門職の理解 1 地域医療連携室、医療ソーシャルワーカー	講義	大名 上田
	第3回 専門職の理解 2 医療技術センター総論、臨床工学技士、歯科、眼科、耳鼻科領域における専門技師総論	講義	畠中 小西 横田
	第4回 専門職の理解 3 歯科技工士、歯科衛生士、視能訓練士	講義	畠中 木下 新地
	第5回 専門職の理解 4 臨床心理士、認定遺伝カウンセラー、リハビリテーション技師部門	講義	田中 増井 北村
	第6回 専門職の理解 5 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	講義	玉木 井村 曾山
	第7回 精神疾患ケアチーム (PSW)	講義	道崎 杉本
	第8回 専門職の理解 6 音楽療法士	講義	石原
	第9回 緩和ケア看護チーム 感染管理看護チーム	講義	松澤 徳谷
	第10回 皮膚排泄ケア看護チーム 摂食嚥下障害看護チーム	講義	鈴木 齊藤
	第11回 専門職の理解 7 薬剤師	講義	宮原
	第12回 栄養サポートチーム 管理栄養士	講義	中尾
	第13回 事例演習	講義	太田
	第14回 事例演習	演習	太田
	第15回 事例演習	演習	太田

授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各回の授業テーマにそった文献学習を行う。 事後学修：授業で取り上げたテーマについて、看護との関係性・繋がりという観点で自分の考えを整理しておく。
評価方法・評価基準	評価方法：授業参加度（20%）、期末レポート（80%） 評価基準：授業参加度は、多職種を理解を深めるために、授業毎のコメントカードや授業中に意見や質問をおこなったか。期末レポートは、提示された課題について、チーム医療の在り方を踏まえた自分なりの考えを持つことができているか。
テキスト	特に指定しない
参考図書	鷹野和美(編著) 「チーム医療論」 医歯薬出版株式会社
学生へのメッセージ等	他職種についてよく理解し、チーム医療の在り方について考えてみよう

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	必修
担当教員			
升田 茂章／堀内 沙央里／森兼 眞理			
添付ファイル			

目的	グローバル・ナーシングについて考え、国際社会で活動するための基礎的知識と態度を学ぶ。		
目標	1) 現代の医療を形成している歴史・文化・社会的な背景を理解する。 2) 人間の健康と病が社会的・文化的に構築されたものであることを理解する。 3) グローバリゼーションや人間の国際移動が看護に及ぼす影響を理解する。 4) グローバル・ナーシングとは何か、自分の意見を言える。		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
	第1回 授業オリエンテーション／異文化理解と看護1 概要 健康観への理解と支援（日本における健康観含む）	講義・演習	升田
	第2回 看護師の国際移動と職務 1	講義・演習	升田
	第3回 国際的看護活動 1 世界の課題とSDGs	講義・演習	堀内
	第4回 国際的看護活動2 活動の実際①	講義・演習	大川先生（非常勤講師）
	第5回 国際的看護活動3 活動の実際②	講義・演習	大川先生（非常勤講師）
	第6回 看護師の国際移動と職務2 職務の実際 「奈良医大で勤務するインドネシア人看護師として」	講義	ヨノ看護師（附属病院）
	第7回 異文化理解と看護2 看護の視点と人類学 「タイの社会と文化」①	講義	馬場先生（非常勤講師）
	第8回 異文化理解と看護3 看護の視点と人類学 「タイの社会と文化」②	講義・演習	馬場先生（非常勤講師）
	第9回 異文化理解と看護4 支援の実際① りんくう総合医療センター（その1）	講義・演習	新垣先生（非常勤講師）
	第10回 異文化理解と看護5 支援の実際② りんくう総合医療センター（その2）	講義・演習	新垣先生（非常勤講師）
	第11回 異文化理解と看護6 「チェンマイ大学病院研修報告」	講義	高木看護師・森看護師（附属病院）
	第12回 異文化理解と看護7 支援の実際③ 奈良県外国人支援センター（その1）	講義	大谷先生
	第13回 4限（教養第2講義室） 異文化理解と看護8 支援の実際④ 奈良県外国人支援センター（その2）	講義	徐先生
	第14回 国際的看護活動4 JICA支援活動	講義	森兼
第15回 国際的看護活動5 開発途上国の現状と国際保健・看護活動	講義・演習	堀内	



授業外学修（事前学修・事後学修）	事前学修：各講義のテーマについて、関係する教科書や資料を読んで授業に臨んでください。 事後学修：講義内容について振り返り自分の考えを整理しておく。
評価方法・評価基準	評価方法：各授業中または授業後に提示する課題レポート 15回（100%） 評価基準：各レポートが授業内容を理解し、学んだ内容を整理し自己の考えが提示されているか。
テキスト	「国際化と看護」（MCメディカ出版）
参考図書	系統看護学講座 文化人類学 第3版 波平恵美子編集（医学書院）
学生へのメッセージ等	グローバル・ナースィングに欠かせないのは異文化理解です。身近な日常を見つめることから始めましょう。授業の進行・講義内容は、ゲストスピーカーの事情等により、やむを得ず変更することがあります。

No	科目名	授業方法	単位	実務経験 内容 (職種)	担当教員名
1	病態医学Ⅰ	講義	2	医師	大林千穂、藤井智美、森田剛平、伊丹弘恵、内山智子、西川武、武田麻衣子
2	病態医学Ⅱ	講義	4	医師	濱田薫、庄雅之、河村健二、池田直也、学内眼科専門医 1名、学内耳鼻咽喉科専門医 1名、学内整形外科専門医 1名
3	看護学概論	講義・演習	1	看護師	松田明子
4	看護援助の基本	講義・演習	1	看護師	松田明子、徳谷純子
5	看護技術学Ⅰ	講義・演習	1	看護師	松田明子
6	フィジカルアセスメント	講義・演習	1	看護師	松田明子、三好雅之、浅野沙奈絵
7	看護過程論	講義・演習	2	看護師	松田明子
8	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1	看護師	松田明子、浅野沙奈絵
9	病態医学Ⅲ	講義	4	医師	太田豊作、田中晴之、福島英賢、前川尚宜、瓜園泰之、川井廉之、内田優美子、大前隆志、長谷川真理、大西智子、荻原建一、阿部龍一、田中利洋、伊藤高広、山崎正晴、長安実加、中井靖、鯨島謙一
10	看護倫理学	講義・演習	1	看護師 その他	松田明子、安藤泰至、山本美輪、伊藤雪絵 大河内大博
11	看護技術学Ⅱ	演習	1	看護師	松田明子、浅野沙奈絵
12	健康障害と看護	講義・演習	1	看護師	松田明子
13	ヘルスアセスメント	講義	1	看護師	松田明子
14	基礎看護学実習Ⅱ	実習	2	看護師	松田明子、浅野沙奈絵
15	成人看護学概論	講義	2	看護師	石澤美保子、田中登美
16	成人看護学援助論Ⅰ	講義	1	看護師	長田艶子、佐竹陽子
17	成人看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	石橋千夏、升田茂章
18	老年看護学概論	講義	2	看護師	澤見一枝、木村満夫、古角美保子
19	老年看護学援助論Ⅰ	講義・演習	1	看護師	澤見一枝、木村満夫、古角美保子
20	小児看護学概論	講義	2	看護師	川上あずさ
21	小児看護学援助論Ⅰ	講義	1	看護師	小代仁美
22	母性看護学概論	講義	2	助産師	五十嵐稔子
23	母性看護学援助論Ⅰ	講義・演習	1	助産師	森兼眞理、岡山真理
24	精神看護学概論	講義	2	看護師	風間眞理
25	精神看護学援助論Ⅰ	講義・演習	1	看護師	橋本顕子、風間眞理
26	公衆衛生看護学概論	講義	2	保健師	城島哲子
27	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	講義	2	保健師 その他	城島哲子、堀内沙央里 日高庸晴(研究者)
28	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	講義	2	保健師	坂東春美
29	公衆衛生看護学活動論Ⅲ	講義・演習	1	保健師	城島哲子
30	緩和ケア論	講義・演習	1	看護師	田中登美
31	リハビリテーション看護	講義・演習	1	看護師	石澤美保子、佐竹陽子、長田艶子
32	在宅看護学概論	講義・グループワーク	2	看護師 医師	小竹久実子、栗田麻美 武田以知郎
33	保健医療福祉行政論Ⅰ	講義	1	その他	村上真(研究員)
34	保健医療福祉行政論Ⅱ	講義・演習	2	その他	村上真(研究員)
35	保健統計学Ⅰ	講義	1	診療放射線技師	周藤俊治
36	保健統計学Ⅱ	講義・演習	1	診療放射線技師	周藤俊治
37	成人看護学援助論Ⅲ	講義・演習	1	看護師	佐竹陽子、長田艶子、森脇裕美、石澤美保子
38	成人看護学援助論Ⅳ	講義・演習	1	看護師	升田茂章、石橋千夏、田中登美
39	成人看護学実習Ⅰ	実習	3	看護師	佐竹陽子、長田艶子、石澤美保子
40	成人看護学実習Ⅱ	実習	3	看護師	石橋千夏、升田茂章、田中登美
41	老年看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	澤見一枝、木村満夫、古角美保子
42	老年看護学実習	実習	4	看護師	澤見一枝、木村満夫、古角美保子
43	小児看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	山田晃子、川上あずさ
44	小児看護学実習	実習	2	看護師	山田晃子、小代仁美、川上あずさ
45	母性看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	助産師	森兼眞理、岡山真理
46	母性看護学実習	実習	2	助産師	森兼眞理、岡山真理、乾つぶら、上田佳世、五十嵐稔子
47	精神看護学援助論Ⅱ	講義・演習	1	看護師	奥田淳、風間眞理
48	精神看護学実習	実習	2	看護師	奥田淳、橋本顕子、風間眞理
49	家族看護学	講義・演習	2	看護師 その他	川上あずさ 粕井みづほ
50	在宅看護学援助論	講義・演習	2	看護師	栗田麻美、小竹久実子、西森旬恵、羽場香織
51	在宅看護学実習	実習	2	看護師	栗田麻美、小竹久実子、西森旬恵、羽場香織
52	ヘルスプロモーションと健康教育	講義・演習	2	保健師	城島哲子、堀内沙央里
53	医療安全	講義・演習	1	看護師	松田明子、飛田伊都子、霧下由美子、徳谷純子
54	疫学	講義・演習	2	医師	佐伯圭吾
55	公衆衛生看護学活動展開論	講義・演習	2	保健師	坂東春美、城島哲子、堀内沙央里
56	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	講義・演習	2	保健師 医師 管理栄養士	坂東春美、堀内沙央里 中川仁、中谷敏昭、 岩橋明子、野原潤子
57	公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ	講義・演習	1	保健師	坂東春美、堀内沙央里
58	産業保健活動論	講義・演習	1	保健師	城島哲子、河田志帆
59	学校保健活動論	講義	1	養護教諭	古川恵美
60	公衆衛生看護管理論	講義・演習	2	保健師	城島哲子、朽木悦子
61	公衆衛生看護学実習Ⅰ	実習	2	保健師	坂東春美、堀内沙央里、城島哲子
62	公衆衛生看護学実習Ⅱ	実習	3	保健師	坂東春美、堀内沙央里、城島哲子
63	看護管理論	講義・グループワーク	1	看護師	川上あずさ、撫養真紀子、橋口智子、平島規子、田中奈都
64	看護研究特論	講義・演習	1	看護師	川上あずさ、他看護学科全教員
65	看護研究	実習	2	看護師	看護学科教員
66	統合実習	実習	2	看護師	看護学科教員
67	災害看護論	講義・演習	1	看護師	西上あゆみ
68	チーム医療論	講義・演習	1	医師	太田豊作
69	国際看護論Ⅰ	講義・演習	1	看護師	升田茂章、堀内沙央里
	計		111		

# 看護学科 教員名簿

(看護学科専任教員)

(2021年4月1日付)

領 域 名	職 名	氏 名	部屋番号	領 域 名	職 名	氏 名	部屋番号
人間発達学	教授	太田 豊作	505	小児看護学	教授	川上 あずさ	502
					講師	小代 仁美	408
臨床病態医学	教授	濱田 薫	404		講師	山田 晃子	406
基礎看護学	教授	松田 明子	403	母性看護学	教授	五十嵐 稔子	401
	助教	浅野 沙奈絵	第 1 共同研究室		講師	乾 つぶら	514
	助教	吉川 あゆみ	510		講師	森兼 眞理	407
			講師		上田 佳世	513	
成人急性期看護学	教授	石澤 美保子	503	助教	岡山 眞理	第 1 共同研究室	
	講師	長田 艶子	408	精神看護学	教授	風間 眞理	405
	講師	佐竹 陽子	501		講師	橋本 顕子	407
	助教	森脇 裕美	第 1 共同研究室		講師	奥田 淳	508
成人慢性期看護学	教授	田中 登美	507	在宅看護学	教授	小竹 久実子	402
	講師	石橋 千夏	514		講師	栗田 麻美	513
	講師	升田 茂章	508		助教	西森 旬恵	510
老年看護学	教授	澤見 一枝	504		助教	羽場 香織	第 1 共同研究室
	助教	木村 満夫	512	公衆衛生看護学	教授	城島 哲子	506
	助教	古角 美保子	510		准教授	坂東 春美	509
			助教		堀内 沙央里	第 1 共同研究室	

## (教養教育部門専任教員／看護学科兼担教員)

(2021年4月1日付)

氏名	授業科目名	所属等	教室
池邊 寧	哲学 医療に関わる倫理学Ⅰ・Ⅱ 西洋文化論	教養教育部門哲学准教授	教養2階哲学教室
フランチェスコ・ボルスタッド	臨床英語Ⅰ・Ⅱ 英語表現法Ⅰ・Ⅱ	教養教育部門臨床英語教授	教養2階英語教室
ポール・マシソン	臨床英語Ⅰ・Ⅱ 英語表現法Ⅰ・Ⅱ	教養教育部門臨床英語准教授	教養3階英語教室
マイケル・プロジェクト	英語表現法Ⅰ・Ⅱ	教養教育部門臨床英語講師	教養3階英語教室
裏山 悟司	生物学	教養教育部門生物学助教	教養3階生物学教室
山本 恵三	化学	教養教育部門化学准教授	教養2階化学教室
石指 宏通	健康科学 健康運動学	教養教育部門保健体育教育教授	体育館
矢野 寿一	微生物学	医学科微生物感染症学教授	基礎4階微生物感染症学教室
中野 竜一	微生物学	医学科微生物感染症学准教授	基礎4階微生物感染症学教室
中野 章代	微生物学	医学科微生物感染症学助教	基礎4階微生物感染症学教室
今村 知明	公衆衛生概論	医学科公衆衛生学教授	基礎4階公衆衛生学教室
野田 龍也	公衆衛生概論	医学科公衆衛生学准教授	基礎4階公衆衛生学教室
岡本 左和子	公衆衛生概論	医学科公衆衛生学講師	基礎4階公衆衛生学教室
西岡 祐一	公衆衛生概論	医学科公衆衛生学助教	基礎4階公衆衛生学教室
周藤 俊治	保健統計学Ⅰ・Ⅱ	地域医療学講座准教授	地域医療学講座
和中 明生	人体構造学	医学科第二解剖学教授	基礎1階第二解剖学教室
辰巳 晃子	人体構造学	医学科第二解剖学准教授	基礎1階第二解剖学教室
田中 達英	人体構造学	医学科第二解剖学講師	基礎1階第二解剖学教室
齋藤 康彦	人体機能学	医学科第一生理学教授	基礎3階第一生理学教室
堀江 恭二	人体機能学	医学科第二生理学教授	基礎3階第二生理学教室
坂野 公彦	人体機能学	医学科第二生理学講師	基礎3階第二生理学教室
吉田 純子	人体機能学	医学科第二生理学助教	基礎3階第二生理学教室
高澤 伸	生化学	医学科生化学教授	基礎2階生化学教室
山内 晶世	生化学	医学科生化学助教	基礎2階生化学教室
牧野 舞	生化学	医学科生化学助教	基礎2階生化学教室
大林 千穂	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学教授	病理診断科医局
藤井 智美	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学准教授	病理診断科医局
森田 剛平	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学助教	病理診断科医局
伊丹 弘恵	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学講師	病理診断科医局
内山 智子	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学助教	病理診断科医局
西川 武	病態医学Ⅰ	病院病理部副技師長	病院病理部技局
武田 麻衣子	病態医学Ⅰ	医学科病理診断学講師	病理診断科医局
庄 雅之	病態医学Ⅱ	医学科消化器・総合外科学教授	消化器総合外科学
河村 健二	病態医学Ⅱ	玉井進記念四肢外傷センター准教授	整形外科医局
池田 直也	病態医学Ⅱ	乳腺センター准教授	消化器総合外科学
吉栖 正典	基礎薬理学	医学科薬理学教授	基礎3階薬理学教室
中平 毅一	臨床薬理学	医学科薬理学准教授	基礎3階薬理学教室
京谷 陽司	臨床薬理学	医学科薬理学助教	基礎3階薬理学教室
趙 晶	臨床薬理学	医学科薬理学助教	基礎3階薬理学教室
田中 晴之	病態医学Ⅲ	医学科呼吸器内科学助教	呼吸器内科医局
福島 英賢	病態医学Ⅲ	医学科救急医学教授	救急科医局
前川 尚宜	病態医学Ⅲ	医学科救急医学講師	救急科医局
瓜園 泰之	病態医学Ⅲ	医学科救急医学講師	救急科医局
川井 廉之	病態医学Ⅲ	医学科救急医学助教	救急科医局
内田 優美子	病態医学Ⅲ	総合周産期母子医療センター講師	小児科医局
大前 隆志	病態医学Ⅲ	地域医療学講座特任助教	地域医療学講座
長谷川 真理	病態医学Ⅲ	医学科小児科学助教	小児科医局
荻原 建一	病態医学Ⅲ	医学科小児科学助教	小児科医局
大西 智子	病態医学Ⅲ	医学科小児科学診療助教	小児科医局
阿部 龍一	病態医学Ⅲ	中央手術部助教	中央手術部医局
田中 利洋	病態医学Ⅲ	医学科放射線医学准教授	放射線科医局
伊藤 高広	病態医学Ⅲ	医学科放射線医学講師	放射線科医局
山崎 正晴	病態医学Ⅲ	中央臨床検査部病院教授	中央臨床検査部技局
長安 実加	病態医学Ⅲ	医学科産婦人科学助教	産婦人科医局
三宅 龍太	病態医学Ⅲ	医学科産婦人科学医員	産婦人科医局
中井 靖	病態医学Ⅲ	医学科泌尿器科学内講師	泌尿器科医局
後藤 大輔	病態医学Ⅲ	医学科泌尿器科助教	泌尿器科医局
鯨島 謙一	病態医学Ⅲ	医学科腎臓内科学講師	腎臓内科学医局
佐伯 圭吾	疫学	医学科疫学・予防医学教授	基礎4階疫学・予防医学教室
大林 賢史	疫学	医学科疫学・予防医学特任准教授	基礎4階疫学・予防医学教室
山上 優紀	疫学	医学科疫学・予防医学助教	基礎4階疫学・予防医学教室
中川 仁	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	医学科循環器内科学助教	循環器内科学医局

## (教養教育部門非常勤講師／看護学科非常勤講師)

(2021年4月1日付)

氏名	授業科目名	所属等
近池 操	臨床心理学	奈良県病院協会看護専門学校 非常勤講師
山本 典子	臨床心理学	大阪大学 非常勤講師
宿谷 仁美	臨床心理学	関西福祉科学大学 講師
池上 徹	教育実践論	関西福祉科学大学 准教授
板橋 孝幸	教育実践論	奈良教育大学 教授
谷 直之	社会福祉と医療法規	同志社女子大学 教授
倉持 史郎	社会福祉と医療法規	同志社女子大学 准教授
エルリッヒ・スウェン・マーティン	異文化論	甲南大学国際言語文化センター、京都府立大学、関西学院大学、神戸女学院大学、立命館大学 非常勤講師
スフィアン・エルファンディ	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
リマ・ガシュット	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
メリッサ・ハミルトン	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
クレア・ムレイ	臨床英語Ⅰ 臨床英語Ⅱ	
北澤 良子	英語表現法Ⅰ 英語表現法Ⅱ	
浅井 良純	アジア文化論	同志社大学 嘱託講師
富岡 三智	アジア文化論	立命館大学、京都産業大学、甲南女子大学 非常勤講師
水野 杏紀	アジア文化論	関西医療大学 非常勤講師
勝井 伸子	西洋文化論	森ノ宮医療大学 非常勤講師
折井 穂積	西洋文化論	
中川 晶	カウンセリング論	なかがわ中之島クリニック 院長
田中 佐和子	カウンセリング論	奈良学園大学 非常勤講師
村上 真	保健医療福祉行政論Ⅰ 保健医療福祉行政論Ⅱ	京都国際社会福祉センター 非常勤講師
河野 秀壽命	日本国憲法	龍谷大学 非常勤講師
堀 あきこ	家族社会学	大阪電気通信大学 非常勤講師
古屋 哲	国際情勢論	立命館アジア太平洋大学 非常勤講師
神奈川 芳行	公衆衛生概論	東日本旅客鉄道株式会社 東日本健康推進センター 医長
清水 多嘉子	公衆衛生概論	がん研有明病院 看護部長
久保 慎一郎	公衆衛生概論	厚生労働省
浅野 弘明	情報科学	京都府立医科大学 特任教授
小島 ゆかり	栄養学	近畿大学 非常勤講師
安藤 泰至	看護倫理学	鳥取大学 准教授
伊藤 雪絵	看護倫理学	奈良県立医科大学附属病院 臨床研究センター
大河内 大博	看護倫理学	願生寺
山本 美輪	看護倫理学	香川大学 教授
徳谷 純子	看護援助の基本 医療安全	奈良県立医科大学附属病院 感染管理室
三好 雅之	フィジカルアセスメント	鳥取大学 特命助教
石原 興子	精神看護学援助論Ⅰ チーム医療論	相愛大学 准教授
日高 庸晴	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	宝塚大学 教授
野原 潤子	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	畿央大学 講師
岩橋 明子	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	帝塚山大学 講師
中谷 敏昭	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	天理大学 教授
河田 志帆	産業保健活動論	京都先端科学大学 講師
古川 恵美	学校保健活動論	畿央大学 准教授
朽木 悦子	公衆衛生看護管理論	社会医療法人景岳会
撫養 真紀子	看護管理論	兵庫県立大学 教授
橋口 智子	看護管理論	奈良県立医科大学附属病院看護部長
平島 規子	看護管理論	奈良県立医科大学附属病院 看護部
田中 奈都	看護管理論	奈良県立医科大学附属病院 看護部
松田 千登勢	家族看護学	摂南大学 教授
粕井 みづほ	家族看護学	畿央大学 客員教授
武田 以知郎	在宅看護学概論	明日香村国民健康保険診療所
増野 章子	在宅看護学援助論	日本保健医療大学 講師
西上 あゆみ	災害看護論	藍野大学 教授
飛田 伊都子	医療安全	滋慶医療科学大学院大学 教授
霧下 由美子	医療安全	奈良県立医科大学附属病院 医療安全推進室
大川 純代	国際看護論Ⅰ	大阪国際がんセンター
新垣 智子	国際看護論Ⅰ	りんくう総合医療センター
馬場 雄司	国際看護論Ⅰ	京都文教大学 教授